

寄宿舎生活における新型コロナ対策マニュアル
(6.15 改定版)

はじめに

4月当初、播磨特別支援学校寄宿舎では、寄宿舎での感染者の発生を防ぐため、「対策マニュアル」を策定いたしました。

その後、緊急事態宣言が解除され、学校及び寄宿舎が再開されるにあたり、今一度、寄宿舎での感染予防対策を見直しました。今後、第2波、第3波の感染拡大が予想される中、基本的な取り組みの方針は変わりませんが、細かな点で状況の変化に対応した変更をしています。

今後も、寄宿舎での実際の生活の中で、対応の変化が生じた場合は、速やかに検討し、改善していきたいと思えます。

“With コロナ“、舎生のみなさんや保護者の方々には、これからも続く「コロナとの共生」のためご不便、ご心配をおかけしますがご理解の上、ご協力をお願いいたします。

※下線部が、訂正した部分です。

基本方針：日常生活の各場面において以下の3点を重視し生活のリズムを作る

○水際対策（ウイルスを持ち込まない）

○手洗い、マスク着用等の徹底

○「3密（密閉・密集・密接）」の解消とソーシャルディスタンス（1.5m～2m）の確保

<日課における具体的な動き>

○水際対策

帰省帰舎

- 帰舎前の家庭での健康チェックの協力依頼（発熱等風邪の症状がある場合は帰舎しない）
- 帰舎時、寄宿舎玄関で検温およびアルコールや石鹸での手指消毒の実施。（舎生および保護者）
※発熱等が確認された場合は、そのまま家に帰っていただきます。
- 単独帰省帰舎の場合
公共交通機関（電車、タクシー）を利用する場合は、感染予防に十分留意（マスクの着用、「3密」の状況を避けるなど）し、帰省帰舎時の検温、手指消毒を徹底する。
※発熱等が確認された場合は、別室で隔離の上、保護者に連絡し、迎えに来ていただきます。
- 送迎の際、寄宿舎に入る人数は必要最小限でお願いします。また、その際、健康観察と手指消毒の徹底にご協力ください。

○手洗い、マスク着用の徹底

手洗い（手指消毒）

- 今まで以上に注意喚起と指導を徹底。（特に帰舎時、食事前、トイレ等の共有場所を使用した後など）
- 間食の前も手洗い指導し、居室で食べる。
- 登校前と下校時に行く。
※消毒液設置場所（寄宿舎玄関、食堂、）

マスクの着用

- 基本的に常時マスクを着用し、特に対面して人に接する場合は、必ずマスクを着用する。

○「3密（密閉・密集・密接）」の解消とソーシャルディスタンス（1.5m～2m）の確保

食事

- 食堂の席は、朝・夕とも固定し同じ方向に向いて、離れて座り、話をせずに食べる。
- 食事前の手洗いの時間確保のため、男女時間差で食堂に行く。
朝食（女子7:15、男子7:20）
夕食（女子17:25、男子17:35）
- 配膳はごはんのみ、前後の間隔に留意しながら各自で行い、それ以外は職員が行う。
- 窓を開けるなど食堂の換気を適時行う。
- 食堂のテーブルに消毒液を置き、配膳を済ませた後、食事の前に手指消毒をする。

入浴

- 一度に入る人数を減らすため、前後半に分け、浴室と脱衣場もできるだけ分散するように、舎生の動きを見ながら調整する。
- 換気扇および窓を開けるなどでの換気を行う。
- 浴室での感染リスクは高いので、シャワーのみの使用とする。
脱衣カゴと脱衣場のマットと足マットは前半と後半の間に、アルコール消毒をする。
棚にある、個々のお風呂セットは、舎生の動く範囲を広げないために、職員が出し入れをする。

自由時間の過ごし方

- 集会室：PCは間隔を開けて並べ使用する。TVは椅子を一方向に向けて座る。
卓球や野球などは当面禁止する。
- 三省下ロビー：椅子の間隔をあける。
- 他棟他室への訪問はしない。

居室

- 随時、意識して換気をする。居室のドアは出入りのある間は開けておく。
- ロスナイ換気扇を使用する。
- 適切な距離（1.5m～2m）を保ち、適切な音量で会話をするよう心がける。
- 仕切りのカーテンは閉めて置く。
- 居室掃除は当番制をやめ、各自が自分の場所を掃除する。トイレ掃除、棟のごみ捨ては職員で行う。

集会（委員会、会議など）

- 換気の良い場所で、短時間とする。できるだけ距離をあけて座らせる。
- マスクを着用し、大きな声は出さない。

健康観察

- 健康チェック表を活用し、朝・夜の検温と舎生の健康管理を行う。

○その他

保健講話、オリエンテーリング、日常の場面での注意喚起

- ウイルスに対する知識や、感染予防のために必要な話を随時する。

寄宿舍で発熱等の、風邪の症状を発症した場合の対応

- 舎生が発熱やカゼの症状を訴えた場合、速やかにその舎生を別室に移し、保護者連絡をし、迎えに来ていただき、家庭での療養をお願いします。同室の舎生は、引き続き寄宿舍で健康観察を行い、保護者に連絡し、週末の家庭での健康観察を依頼する。

<職員の動き>

- 自身の体調管理（毎日の検温）・マスクの着用
- 舎生の健康観察（検温など）マスクの着用指導、「3密」防止のための声掛け、指導。
- 舎生の帰舎時に、寄宿舍玄関にて、舎生の検温および健康観察。
- 食事の時の手袋使用、テーブルの消毒、舎生へのマナー指導。
- 各所の消毒について…舎生登校完了後にメイプジアを使用し、共有部分（ドアノブ、手すり、スイッチ等）をクロスで拭く。帰省日は、舎生が帰省後にもう一度消毒する。

終わりに

今回の改定で特に留意したのが、「寄宿舍で体調不良を訴える舎生が出た場合」の対応です。

ご存じのように、本校の舎生たちは基礎的な疾患を持ち、体調を崩しやすい子どもたちです。そんな舎生に対し、安心して体調不良を訴えることができる環境を整えることが大切です。そのためには他の舎生やご家族の不安を少しでも少なくするための適切な情報共有も不可欠になります。

体調不良は誰にでも起こりうることであり、また、ウイルスに感染することも同じく誰にでも起こりうることです。そのことで、舎生やその家族があらぬ偏見や差別の対象となることはあってならないことだと考えています。このことを私たち学校、寄宿舍はもとより、舎生をはじめご家族の皆さんの共通理解としていただき、今後とも手を携えて、舎生たちの安全と、より良き寄宿舍生活を創り上げていきたいと思えます。

Be Strong, But Be Kind, and Be Smart!!

今後ともご理解、ご協力をよろしくおねがいします。